

第5学年〇組社会科学学習指導案

1 単元 工業の今と未来

2 指導観

(1) 単元観

本単元の指導内容は、小学校学習指導要領の社会、第5学年の内容(3)の「我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていること」を捉えさせることである。「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていること」や「貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていること」と関連させながら、我が国全体の工業生産の特色や現状を捉えるとともに、これからの工業生産のあり方についても考えさせることが主なねらいである。

我が国は、世界有数の工業国であり、中でも機械工業が最も盛んであり、それを基にした加工貿易が日本経済の特徴の一つである。また、高い技術力に支えられた工業製品は、国内だけでなく国外においてもその品質が高く評価されている。しかし、近年、円高、新興国の工業の発展、環境への意識の高まり、消費者の多様なニーズ等から、我が国の工業は海外に拠点を移したり、付加価値のより高い製品や環境に配慮した製品を生み出したりして生産の転換を行っている。このような我が国の工業生産の変化を捉え、今後の日本の工業のあり方について学習することは、我が国の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える上で重要であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、社会科の学習に意欲的に取り組む児童が多い。農業や水産業の学習においては、教科書や資料集を使ったり、インターネットを使って資料を収集したりして、調べることができた。また、それらの資料や地図などの具体的資料を活用し、社会的事象の意味について理解を深めることができていた。しかし、資料から得た事実と事実を関係付けたり、社会的事象を多面的・多角的に考察し表現したりする力が不十分である。授業中は活発に意見を出し合いながら交流を行うが、根拠を示しながら考えを発表するような学習場面の設定が十分でない。

前単元「未来を支える食料生産」では、農業や水産業の盛んな地域やその理由を自然条件や地形などと関連させて考えることができていた。また、それらが消費者の所に届くまでの生産者の工夫や努力について資料をもとに調べ学んできた。また、小単元「これからの食料生産」では、日本の食料自給率の低さに着目させ、その具体や原因などについて具体的資料をもとに調べることができた。その際も、複数の資料をもとに考える児童は学級の半数ほどで多面的に考察する力は十分といえない。さらに、学習問題「日本は食料自給率を上げるべきか」に対しても、調べて話し合ったことをもとに、生産者や消費者、また外国の立場で多角的に考えることができた児童は、3割ほどであった。その要因として、資料の複雑さや多さにより、考える視点が多岐に渡ったことと、それらを分類整理する手立てが不十分だったことなどが考えられる。

これらのことから、今回の単元において、社会的事象に対して、複数の資料をもとに考えを深めたり、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養ったりする力をつけていくことは価値が高いと考える。

(3) 指導観

本単元では、身の回りの工業製品や工業が盛んな地域の分布や生産の割合、大工場と中小工場の特色や中小工場の優れた技術や発想力、海外生産の影響について調べる活動を通して、日本の工業の概要や現状を捉え、工業製品が国民生活の工場に重要な役割を果たしていることを理解し、今後の日本の工業のあり方について多面的・多角的に考えることができるようにしていく。

指導にあたっては、まず、身の回りの工業製品を調べ、種類ごとに分けたり白地図に整理したりして、気付いたことや疑問に思ったことなどをもとに、学習問題Ⅰ「工業の特色について調べ、自分との生活との関わりについて考えよう。」を設定する。学習問題Ⅰの追究活動では、工業の盛んな地域が生産や輸送に適した条件にあること、中小工場が高い技術を生かして製品をつくり大工場の生産を支えるとともに国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを教科書や資料をもとに調べ、話し合い、捉えさせていく。

次に、国内の工場数や主な電化製品の国内生産台数が減少していることや外国における日本の会社や海外生産が増えてきていることに気付かせ、学習問題Ⅱ「日本の工業の現状や問題点から、今後の日本の工業のあり方について考えよう」を導き出す。その後、今後の日本の工業のあり方について、海外生産のよさと問題点に分かる具体的な資料をもとに調べ話し合うことで、多面的・多角的に考察し、今後の日本が工業生産をどのように進めていくべきかを公正に判断させていく。

最後に、学習問題Ⅰ、学習問題Ⅱで調べ考えてきたことに加え、日本の工業生産の発展について自分の考えを新聞にまとめさせる。新聞にまとめ、発信していく活動を通して、工業生産の特色や現状を捉えなおすとともに、これからの工業生産の発展に対しての考えを深めさせていく。

3 目標

- 我が国では、様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていることなどについて資料を適切に用いて調べ、まとめ、日本の工業の特色や工業生産が国民生活に重要な役割を果たしていることを理解することができる。 **【知識及び技能】**
- 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、これからの工業のあり方などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割や今後の日本の工業のあり方について多面的に考えたり、表現したりすることができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- 我が国の工業生産に関心をもち、その特色や現状について意欲的に調べたり、今後の我が国の工業生産のあり方について考えていこうとする態度を高めたりすることができる。 **【学びに向かう力、人間性等】**

4 単元指導計画（全9時間）

次	時	学習活動	主体的・対話的で深い学びの視点に立った手立て
一	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">工業の特色について調べ、自分の生活との関わりについて考える</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの工業製品を調べ、種類ごとに分けたり、白地図に整理したりして学習問題Ⅰを設定し見通しをもつ。 ○ 工業の盛んな地域が生産や輸送に適した条件を備えていることを捉えるために、それらの地域の分布や生産の割合について調べる。 ○ 工業生産が国民生活に果たす役割や工業に従事する人々の工夫や努力について捉えるために、大工場と中小工場の特色について調べる。 ○ 国内の工場の優れた技術や発想力に着目して、日本の工業生産の発展につながる人々の工夫や努力を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの工業製品を調べ、白地図にまとめる活動を取り入れ、驚きや疑問などを生かした課題の設定 ○ 課題解決につながる根拠や事例を含む資料の提供 ○ 実生活、既習の学びとの関連を関係付け

二	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本の工業の現状や問題点から、今後の日本の工業の在り方について考える</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国内の工場数や主な電化製品の国内生産台数の減少、海外生産の移転など、日本の工業を取り巻く変化に着目して、日本の工業生産の現状や課題を捉える。 ○ 海外生産の影響について多角的に捉えることができるように、海外生産のよさや問題点について調べる。 ○ 今後の日本の工業生産をどのように進めていくべきかを話し合う。《本時》 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項（農業や食料生産などの現状や課題）や前時までのつながりを意識する場の設定 ○ 海外生産のよさと問題点を調べるための多面的な理解につながる資料の提供 ○ 問いに対して、多角的に考える場の設定
三	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本の工業の今と未来についてまとめる</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ これからの工業の発展のためにどうしていくべきかを考え、日本の工業の特色について新聞にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞にまとめる活動を通して、自分の学びを自分の言葉（表現）でまとめる時間の保障

5 本時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時 於 5年〇組教室

(1) 主眼

- 日本の今後の工業生産の在り方について、海外生産のよさと問題点をもとに、国内生産と海外生産の両方の立場から話し合う活動を通して、日本だけでなく相手国のことも考えた自分なりの考えを表現することができる。

(2) 授業仮説

次のような手立てを位置付ければ、日本だけでなく相手国のことも考えた自分なりの考えを表現することができるであろう。

- 本時の問いをもつことができるように、前時学習で調べてきた「海外生産が増えているわけや問題点」を想起させ、「では、今後日本は工業生産をどのように進めていくべきなのか」と投げかける。
- 問題点に対する解決方法を考えることができるように、班での学び合いを行わせたり、「では、海外生産をしない方がよさそうだね。」「日本さえよければいいんじゃないの？」などの揺さぶりを行ったりする。
- 海外生産のよさと問題点の両面についてまとめながら、多角的に考えることができるように、フォーマットを提示する。

(3) 本時の主たる見方・考え方

児童が働かせる主たる見方・考え方	【見方】日本の工業の外国への広がりに着目して【考え方】海外生産のよさや問題点とこれからの工業の在り方を関係付けて考える。
------------------	--

(4) 準備 資料（国内の工場数減少、海外生産のよさ、問題点など）、学習プリント

(5) 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点 (◇評価)
<p>1 前時学習を想起し、本時のめあてをつくる。</p> <div data-bbox="225 300 783 376">  <p>現地の賃金の安さや輸送代の問題、相手国の利益などの理由で増えていました。</p> </div> <div data-bbox="204 389 783 472">  <p>日本の工場が減っている、災害や事件が起きたら輸送がストップする問題もありました。</p> </div>	<p>○ 本時の問いをもつことができるように、前時学習で調べてきた「海外生産が増えているわけや問題点」を想起させ、「では、今後日本は工業生産をどのように進めていくべきなのか」と投げかける。</p>
<p>(めあて) 日本は、これから工業生産をどのように進めていくべきか考えよう。</p>	
<p>2 本時の問いに対して調べ、交流する。</p> <p>(1) 調べてきた中で、日本の工業が大事にしないといけないことを、発表する。</p> <div data-bbox="193 763 703 875">  <p>私は、日本の工場を増やすことを大事にすべきだと思います。理由は、資料 A から日本の工場が減っていることが分かり、このままでは日本から工場がどんどん減っていくと思うからです。</p> </div> <div data-bbox="193 898 794 1010">  <p>私は、安い工業製品が日本へ逆輸入され、安く購入できていることを大事にすべきだと思います。理由は、衣料品などの多くは逆輸入されていて安く買うことができているからです。</p> </div> <p>(2) どうすべきかグループで話し合う。</p> <div data-bbox="193 1070 804 1167">  <p>私は、災害やコロナなどで輸送が止まるのが今後もあると思うので、海外生産だけにたよるのではなく、日本にも工場をつくっておくべきだと思うよ。</p> </div> <div data-bbox="213 1182 671 1294">  <p>私は、情報や技術が流出している問題点について、与えてよい情報は相手国のためになるけど、大事な情報は流さないように気をつけるべきだと思うよ。</p> </div>	<p>○ どうすべきか多面的・多角的に考えられるように、児童から出された意見を構造的に板書する。</p> <p>○ 話し合いが深まるように、どの資料からの考えなのか根拠をもとに言うこと、意見がつかない、「〇〇さんと同じで」などの枕詞を言うことを確認する。</p> <p>○ 自分の考えを付加・修正・強化できるように、グループでの学び合いを行う。</p> <p>○ 「海外生産を減らし、日本の工場を増やすべきだ」と意見が傾いていたなら、「でも、海外生産のよさもあったよね?」「日本だけよければいいんだね?」などの揺さぶりをを行う。</p>
<p>(2) 全体で交流する。</p> <div data-bbox="213 1346 703 1451">  <p>私の班では、言葉や文化の違いがあるという問題点を解決するためには、海外生産を行っていく上で、相手の国の言葉や文化を理解することが大切だという意見が出ました。</p> </div>	<p>○ 共通点や相違点をもとに、「相手国も大切」という考え方を全体で確認する。</p>
<p>3 日本の工業が今後どうあるべきか海外生産のよさと問題点の両面から、自分の考えを再構成する。</p> <div data-bbox="193 1563 783 1720">  <p>海外生産には、「相手国にとって産業の発達」、日本にとって「関税がかからない」などのよさがある。その一方で、「災害などで輸送が止まる」という問題もある。だから、<u>今後は、相手国との関係も大事にしながら海外生産を行い、日本にも工場を確保していくことが大切</u>だと思う。</p> </div> <div data-bbox="193 1742 703 1899">  <p>海外生産は、日本にとって費用の面でよさがある。ただし、情報や技術がもれるおそれがある。しかし、その国に工場ができることによってその国の人々に働く場を与え、その国の工業を発展させるという相手国のよさもある。<u>日本の工業の発展と相手国の発展の両方を大事にしていくことが大切</u>だと思う。</p> </div>	<p>○ よさと問題点の両面をまとめながら、多角的に考えることができるように、フォーマットを提示し、書かせる。</p> <p>○ 机間指導の際には、座席表を活用し、即時的な指導や意図的な指名につなぐ。</p> <p>◇ 日本と相手国のよさと問題点を整理しながら、左記の下線部のように、今後の日本の工業のあり方について、日本だけでなく相手国の立場からも多角的に考え、表現している。</p>
<p>4 学習をふり返り、本時学習をまとめる。</p>	<p>○ 児童の発言の大事な視点を再度確認し、自分の国だけでなく相手国のことも考えた多角的な考え方などを価値付けていく。</p>